

玉置功労賞 伊藤 東 殿

2018. 5. 4

玉置功労賞・推薦状（原案）

1943 年の東京都江戸川区生れ。1968 東京大学工学系大学院修士（化学工学）を終了し 1969 年に電気化学株式会社（現、デンカ）に入社。研究開発部長、千葉工場長、大牟田工場長、青海工場長、代表取締役副社長等を経て、現在は特任嘱託。

東京大学の教養学部時代に、科学技術白書の記述『多数の石油化学プラントの技術導入により、技術の国際収支は大幅な赤字』をみて、専攻課程として化学工学を選定。大学 3 年の授業時に難波桂芳先生の『化学では安全が重要』が強く印象に残り、企業では「安全に配慮したプロセス開発」を実行した。多くのプロセスを「ビーカー試験、ベンチ試験、パイロットプラント、本プラント」の過程を経て開発し、現存は 5 つのプロセスで 10 基のプラントが稼動中であるが、プロセス災害は起こしていない。更に、工場担当時には、一人ひとりの自主的な活動を重視した「安全優先」の安全活動推進を図った。その結果、千葉工場に於いて“1000 日無災害”を達成している。

化学工学会関東支部長、電気化学会会長を経て、2010 年より安全工学会副会長を 2 期 4 年担当し 2014 年に会長を拝命。この間、2011 年より保安力向上センターの設立に関与し、2013 年よりの自主的な保安力向上活動の推進を支援。2018 年の保安力向上センターの独立法人化に伴い会長職を受諾。

安全工学会に於いて、小野会長による「社長安全懇談会」の開催に合わせ、副会長として「安全担当役員懇談会」を開催（化学企業 8 社、述べ 4 回）し、更に「工場長安全懇談会」を 5 つのコンビナート地区にて開催する等、経営層の安全関与の在り方を議論してきた。

安全活動は、事故による損失防止の「マイナス効果抑制」と事故を減少させて生産性等の向上を図る「プラス効果拡大」が有るが、プラスの拡大を図る「攻めの安全投資」の拡大を提唱。また、作業員減少や技術伝承の困難化への対応として、IoT や AI の最新技術を活用した「安全性向上と生産性向上」を両立させる安全投資を提言している。

学生時代より社会に役立つ技術をめざし、その前提と成る安全に配慮した技術確立を図り、また安全工学会等に於いて、産業活動における安全の向上に努めて来た。これ等の実績を考慮し、伊藤東氏を玉置功労賞に推薦致します。

<経歴書>

1943年 東京都江戸川区生
1968年 東京大学工学系大学院修士
1969年 電気化学工業株式会社入社
2008年 同上 代表取締役副社長
現在 デンカ株式会社 特任嘱託
安全工学グループ 代表

1943年生。1968年東京大学工学系大学院修士課程修了、博士課程進学。
1969年電気化学工業(株)入社、研究開発部長、千葉工場長、大牟田工場長、
青海工場長、代表取締役副社長等を経て現在、特任嘱託。

<学会関連>

化学工学会・関東支部長、電気化学会会長、安全工学会会長を歴任、
2016年に安全工学グループ代表。